

## 平成30年度 内灘町立内灘中学校 学校評価報告書【最終】

①よくあてはまる ②あてはまる ③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない <前期アンケート：7月実施、後期アンケート：12月実施>

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( ):H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策
学 力 の 向 上	① 授業力の向上	【教職員】 生徒指導の3機能を活かした授業づくりに努めている	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	91% (97)	29 (26)	B	・年度初めの共通理解だけでなく、機会を捉えて実践状況を確認したり、課題を意識したりしながら、年間を通して進めていく。
		【教職員】 課題等を工夫し、課題を意識した授業づくりに努力できた		89% (91)			
		【教職員】 同じ教科を担当する職員と共通理解を図り、実践を進めることができた		95% (93)	38 (30)	A	○年間を通して研究授業や相互授業参観などで、授業研究を進めてきたため、高い意識を維持できたと思われる。これからも、意識を継続できるように、学校全体で取り組んでいく。
		【生徒】 授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う		93% (91)			
		【生徒】 授業は分かりやすい		93% (98)	48 (42)	A	○教科部会を定期的に設定し、各教科で共通理解、共通実践を図るようにしてきた。今後も継続していく。
		【保護者】 学校は、分かりやすい授業や学力向上に努めている		91% (96)			
	【生徒】 定期的な漢字・英単語テストにしっかり取り組んでいる	90% (93)	36 (40)	A	○「生徒をつなぐ働きかけ」を学校研究の柱として進めてきたため、年間を通して意識しながら授業することができた。		
	【保護者】 学校は、分かりやすい授業や学力向上に努めている	90% (96)					
	② 校内研修の充実	【教職員】 校内研修会を通して、意識向上や指導力向上につながった	84% (88)	22 (29)	B	◆生徒による授業アンケート（年3回）をとり、授業づくりに生かしてきたが、これからも生徒の実態をしっかり捉え、実践に生かしていく。 ・テスト前などの放課後の時間に質問教室なども設定していく。	
	③ 基礎・基本の定着と活用力の向上	【教職員】 反復指導等、基礎・基本の定着への取組ができた	83% (88)				
③ 基礎・基本の定着と活用力の向上	【生徒】 定期的な漢字・英単語テストにしっかり取り組んでいる	76% (90)	17 (14)	B	・学習についての取組や学習の様子などは、各学年の学習便りなどで保護者に周知していく。		
		79% (89)					
③ 基礎・基本の定着と活用力の向上	【生徒】 定期的な漢字・英単語テストにしっかり取り組んでいる	96% (92)	40 (40)	A	○年度当初には学校研究の確認としての研究授業、中間時期には教科の指導力向上のための研究授業として、研修を進めることができた。担当教科でない授業を参観することで、他教科から学ぶ機会を設定することができた。		
		97% (93)					
③ 基礎・基本の定着と活用力の向上	【生徒】 定期的な漢字・英単語テストにしっかり取り組んでいる	93% (96)	43 (42)	A	○漢字テストや英単語テストについては、事前に範囲を知らせ、家庭学習で練習させてから実施した。満点合格者を掲示するなどし、取組意識の向上をはかることができた。		
		95% (98)					
③ 基礎・基本の定着と活用力の向上	【生徒】 定期的な漢字・英単語テストにしっかり取り組んでいる	93% (93)	61 (63)	A			
		92% (94)					

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策	
1	学力の向上	④ 学習規律の確立	【教職員】 活用力や書く活動を取り入れた授業に努力できた	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	91% (95)	36 (42)	A	○「生徒の考えを広げる働きかけ」を学校研究として進めてきたため、発表や書く活動を年間を通して意識しながら授業することができた。
			【教職員】 学習規律（授業ルール）の定着に向けた取組に努めた		91% (98)	43 (49)	A	○教員アンケートを取り、実態を把握するとともに、課題を共通理解し、実践にいかすことができた。
			【生徒】 授業のルールをしっかりと守って取り組んでいる		90% (94)	36 (41)	A	○生徒には「授業ルール強化週間」（学期に1回）を設定し、自己評価させるようにした。年間を通して、授業ルールを意識させることができた。
		⑤ 家庭学習の充実	【教職員】 計画を立てて家庭学習するように指導している		79% (85)	24 (21)	B	・生徒による家庭学習アンケート（年4回）をとり、生徒の実態を把握してきた。「家庭学習ノートの取組」や「宿題の見える化」「家庭学習強化週間」の取組を継続し、家庭学習を充実させていく。
			【生徒】★全国質問紙(10) 家で、自分で計画を立てて勉強している		57% (64)	17 (15)	C	・定期テスト前に計画表を作成させ、見通しを持って学習する意識を持たせる。各学年で学習を充実させるような取組を行う。計画を立てる具体例や手順を集会などで周知する。
			【保護者】 わが子は、自分で計画を立てて勉強している。		52% (56)	19 (15)	D	・学校での学習についての取組などは、各学年の学習便りなどで保護者に周知していく。 ・「3点固定（起床時間・学習開始時間・就寝時間）」を家庭と連携して推進していく。
		⑤ 家庭学習の充実	【教職員】 いじめや不登校等の問題に対して組織的に取り組んでいる		98% (96)	55 (57)	A	○教育活動全般において、いじめを根絶するための方策を提示することによって、教職員の意識がさらに高まったと思われる。今後もいじめについては、あらゆる場面においてアンテナを高くし、いじめの根絶に向けて取り組んでいきたい。
			【生徒】★全国質問紙(5) いじめは、どんな理由があってもいじめないことだと思う		97% (97)	84 (83)	B	◆生徒の中には若干名ではあるが、いじめられる側に問題があると考えている生徒がいる。どんな理由があっても、いじめは絶対に許されないことであるという意識を、生徒の中に浸透させていきたい。
			【保護者】 学校は、いじめや不登校等の問題の解決に向けて積極的に取り組んでいる		64% (80)	19 (16)	C	◆いじめ解決に向けての様々な取組の中で、生徒及び教職員内での意識は高まったと思われるが、保護者アンケートにもあったように、まだまだ学校内での取組が保護者に伝わっていない部分があると思われる。 ・今後ホームページや各種たよりを通じて、積極的にいじめ根絶に向けての取組を保護者に発信していく必要があると思われる。
		2	生徒指導の充実		① 生徒理解に基づく規範意識・社会性の向上	【教職員】 いじめや不登校等の問題に対して組織的に取り組んでいる	A：①+②が95%以上 B：①+②が85%以上 C：①+②が75%以上 D：①+②が75%未満	98% (96)
【生徒】★全国質問紙(5) いじめは、どんな理由があってもいじめないことだと思う	A：①+②が100% B：①+②が95%以上 C：①+②が90%以上 D：①+②が90%未満	97% (97)	84 (83)	B	◆生徒の中には若干名ではあるが、いじめられる側に問題があると考えている生徒がいる。どんな理由があっても、いじめは絶対に許されないことであるという意識を、生徒の中に浸透させていきたい。			
【保護者】 学校は、いじめや不登校等の問題の解決に向けて積極的に取り組んでいる	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	64% (80)	19 (16)	C	◆いじめ解決に向けての様々な取組の中で、生徒及び教職員内での意識は高まったと思われるが、保護者アンケートにもあったように、まだまだ学校内での取組が保護者に伝わっていない部分があると思われる。 ・今後ホームページや各種たよりを通じて、積極的にいじめ根絶に向けての取組を保護者に発信していく必要があると思われる。			

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( ):H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策
2 生徒指導の充実		【生徒】 先生方は、意見や思い、悩みを聴いて対応してくれる	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	83% (86) 84% (88)	32 (31)	B	◆過去3年間に比べ、低い数値となった。日々の学校生活における生徒の細かな変化を見逃さないように、常にアンテナを高くして、積極的な声かけを行っていく必要があると思われる。 ・生活ノート(はまなす)の提出を促し、生徒がなんでも相談できる体制の強化につとめる。
		【生徒】★全国質問紙(1) 自分には、よいところがあると思う		72% (76) 71% (76)	21 (23)	C	・生徒自身の自己肯定感の向上を促すためにも、これからもあらゆる場面で、「認めて・褒めて・伸ばす」指導の徹底につとめたい。
		【保護者】 学校は、「はまなす」等で生徒を理解するように努め、一人一人に応じた指導に心がけている		78% (90) 80% (89)	17 (21)	B	
	② 積極的な生徒指導の推進	【教職員】 一人一人の生徒を大切に、「認めて、褒めて、伸ばす」指導に心がけている		91% (100) 89% (98)	32 (39)	B	◆100%の数値達成を目標に、全教職員の意識向上をはかっていく必要がある。
		【教職員】 生徒の基本的な生活習慣の定着を図るために努力できた		91% (95) 94% (93)	30 (32)	A	◆100%の数値達成を目標に、全教職員の意識向上をはかっていく必要がある。
		【教職員】 遅刻、忘れ物、提出物について指導に努めた		87% (100) 93% (100)	55 (39)	A	◆100%の数値達成を目標に、全教職員の意識向上をはかっていく必要がある。
		【生徒】 きちんとした生活習慣や態度(時間を守る・服装等)に心がけている		89% (91) 89% (92)	42 (44)	B	○特定の生徒(不登校生)を除き遅刻はほぼゼロである。また、授業開始のチャイムスタートの意識は定着しつつある。 ◆以前にくらべ数値が低下しているため、学校生活の基
		【生徒】 学校でしっかりと挨拶をしている		94% (94) 92% (94)	47 (55)	A	◆まだまだ生徒の意識と教職員間での「ズレ」があるように思われる。 ・生徒会、代議員、部活動等を前面に出し、あいさつを通じて活気に満ち溢れた雰囲気につとめていきたい。
		【保護者】 わが子は、家庭で挨拶をしている		85% (85) 84% (87)	42 (43)	B	
		【保護者】 学校は、落ち着いて生活や学習に取り組める雰囲気になっている		78% (88) 75% (88)	17 (17)	B	

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の 達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策				
2	生徒指導の充実	③ 問題行動等の指導体制の充実	【教職員】 問題行動等に対しては迅速に組織的に取り組んでいる	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	98% (100)	68 (57)	A	◆100%の数値達成を目標に、全教職員の意識の向上を図っていく必要がある。			
			【生徒】 ルールを守り、正しいことを進んで行おうとしている		92% (94)				38 (42)	A	◆今後もあらゆる活動を通して、ルール指導やマナーの啓発に努めていく必要がある。
		④ 教育相談体制の充実	【教職員】 不登校生徒の対応は、家庭やSC・相談員等との連携を図り、効果的な支援に努めている		95% (96)	40 (50)	A	・今後も諸機関との連携を図りながら、不登校対策を推進していく。			
			【生徒】★全国質問紙(2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれている		83% (87)				28 (30)	B	・「はまなす」をはじめ、「取組の自己評価表」や「宿題」へのコメントを通して、価値づけの取組を継続していく。
			【保護者】 学校は、生徒のことについての連絡や相談に適切に対応している		75% (90)						
			【教職員】 Q U調査や特別支援教育研修会等から、支援を要する生徒の実態を把握し、指導に生かした		90% (91)				29 (20)	B	◆調査の実施から分析・対応策の検討をどのような時期や流れで行えば効果的か再検討する必要がある。
	⑤ 特別支援教育の充実	【教職員】 エンカウンターや人間関係づくり等を通して、人と関わる力の育成に努力できた	84% (78)		45 (14)	A	・昨年度および今年度前期から大きくポイントを上げている。今年度の取組を振り返り、さらに効果的なプログラムの構築に努める。				
		【保護者】 学校は、生徒の努力を適切に評価している	75% (90)					17 (15)	B		
	3	豊心かな育成			【教職員】 道徳の授業を中心に豊かな心や感性を育むよう指導している	91% (88)	27 (41)				A
					【保護者】 学校は、道徳の授業を中心に豊かな心や感性を育むよう指導している	95% (89)		20 (13)	C		
					67% (91)						
					72% (94)						

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の 達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策
3 豊かな心の育成	① 道徳教育や人権教育の推進	【教職員】 教育活動全体を通して、人権意識の高揚に努めている	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	91% (93) 97% (87)	29 (25)	A	・来年度から完全実施の「特別の教科道徳」を充実させるために、考え議論する道徳授業のあり方について検討し、多面的・多角的な考え方のできる生徒の育成に努めていく。  ◆学年が主体となり、学級活動や諸行事を通してリーダーの育成に努めていく必要がある。
		【生徒】 人が困っているときは、進んで助けている		91% (93) 90% (92)	39 (44)	A	
		【生徒】 学校で命の大切さや人権について学ぶ機会がある		94% (92) 94% (96)	52 (55)	A	
	【教職員】 行事や生徒会活動・委員会等に、積極的に取り組むよう支援に努めた	88% (97) 100% (93)		38 (45)	A		
	【生徒】 行事や生徒会活動、学級活動に積極的に取り組んでいる	83% (90) 84% (92)		32 (33)	B		
	【保護者】 わが子は、学校行事（遠足、修学旅行、体育祭や文化祭など）に喜んで参加している	94% (96) 93% (96)		50 (53)	A		
	② 行事、生徒会活動、部活動の活性化	【教職員】 仲良く安心して過ごせる温かい学級づくりに努力できた	A：①+②が95%以上 B：①+②が85%以上 C：①+②が75%以上 D：①+②が75%未満	91% (95) 90% (93)	41 (35)	A	・今年度から各取組において自己評価表を用いて、見通しを持たせながら取り組ませることができた。今後も継続していく。  ・生徒自らが、自己の成長を実感できるよう、授業改善や各取組の内容の充実に努めていく。
		【生徒】 学校に行くのは楽しい		84% (86) 86% (84)	41 (47)	B	
		【保護者】 わが子の学級は雰囲気良く、友達と仲良く活動している		87% (94) 84% (93)	47 (39)	B	
		【保護者】 わが子は、楽しそうに学校へ通っている		89% (92) 87% (89)	44 (40)	B	
		◆いじめのない居心地の良い学級づくりに今後も努めねばならない。					

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の 達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策	
3 豊かな 心の 育成		【教職員】 部活動で生徒の意欲を高め、充実した活動になるよう努力できた	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	94% (95)	46 (55)	A	◆部活動の意義を子どもたちと共有し、目標を持って取り組めるよう指導していく。	
		95% (87)						
		【生徒】 部活動に意欲的に取り組んでいる		94% (93)	64 (64)	A		
	92% (95)							
	【保護者】 部活動は、教育活動の推進のために成果をあげている	90% (92)		34 (55)	B			
	87% (92)							
	③ 体験学習やボランティア活動の推進	【教職員】 学級や学年みんなで協力して何かをやり遂げさせることができた	B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上	84% (91)	41 (40)	A	◆それぞれの取組を通してどのような力を身につけていくのかの見通しを具体的に提示し、指導していく必要がある。	
		【生徒】 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある	D：①+②が60%未満	92% (93)				
	④ キャリア教育（進路学習）の推進	【教職員】 将来の夢や目標を持つことの大切さを指導している	A：①+②が80%以上 B：①+②が65%以上 C：①+②が50%以上 D：①+②が50%未満	93% (91)	37 (34)	A		○各学年における進路学習が計画に基づいて円滑に行われている。
				98% (93)				
		【生徒】 進路学習を通して、自分の将来や進路について考えるようになった		84% (87)	47 (44)	B		
				87% (90)				
【生徒】★全国質問紙(3) 将来の夢や目標を持っている		77% (79)		39 (43)	B	◆キャリア教育のさらなる充実に努めなければならない。		
		75% (79)						
【保護者】 わが子は、将来の夢や目標を持っている	60% (66)	25 (21)	C					
	56% (66)							
【生徒】 内灘中学校の生徒であることをよかったと思っている	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	88% (90)	40 (44)	B	◆自己肯定感、有用感を育むための教育活動のあり方を検討していく必要がある。			
	86% (90)							

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策		
3	豊かな心の育成	⑤ 読書活動の推進	【保護者】 学校は、進路に関する指導（進路説明会・職業調べ等）や情報提供を適切に行っている	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	80% (91)	25 (24)	B	◆各種便りやホームページを通して、関連する情報を積極的に提供していく。	
			【教職員】 読書指導（朝読書等）や図書館活用に努めている		86% (79)				27 (41)
		【生徒】 進んで読書をするようにしている	73% (63)		30 (40)	C	◆現在行っている学校司書による読み聞かせや、新刊案内等の取組をさらに充実させる必要がある。		
		⑥ 清掃活動とエコ活動の充実	【教職員】 無言清掃をしっかりと行わせると共に、校舎や物を大切にしている態度や意識を育てる指導に努めた					84% (88)	29 (27)
			【生徒】 清掃に積極的に取り組んでいる		90% (90)				
			【生徒】★全国質問紙(22) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある		69% (71)	15 (23)	C	◆教科間の横断的な学習、学校行事やボランティア活動を関連づけながら、あらゆる機会を通して学ぶ機会を設ける必要がある。	
	【生徒】★全国質問紙(6) 人の役に立つ人間になりたいと思う		63% (71)						
	① 危機管理意識の向上	【教職員】 危機管理意識を高くもって、日常の安全指導を行っている	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	93% (97)	42 (45)	A	◆防災教育の充実を図っていく必要がある。 ・防災訓練の実施内容の見直しを検討する。		
				98% (95)					
				80% (91)				19 (24)	B
	82% (92)								
	① 危機管理意識の向上	【教職員】 学級等の問題の報告・連絡・相談を確実にし、組織的な対応ができた	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	98% (98)	57 (59)	A	・年度当初に職員間の連絡体制を確認し、「報・連・相」の徹底を図っていく。		
97% (96)									

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策	
4	安全指導と健康づくり	② 安全指導の充実	【教職員】 学校生活の様々な面で安全な行動をとるように指導した	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	91% (100)	51 (48)	A	◆校舎内外の点検等で気になる箇所について、迅速に改善する。
			【生徒】 学校生活で安全に注意しながら行動することができた		96% (97) 94% (96)			
	③ 心と身体の健康づくり	【生徒】★全国質問紙(7) 朝食を毎日食べている	93% (95)		80 (81)	A	○生徒、保護者ともに高い数値を持続している。引き続き、昼の放送や給食便り等を通して食育指導を行っていく。  ◆規則正しい生活習慣について、スクールライフや保健だより等を通して啓発していく。	
		【保護者】 わが子は、家庭で毎日朝食を食べている	94% (94)					81 (76)
		【生徒】 生活習慣(食・睡眠等)に関心を持ち、自分の健康に注意している	93% (94)		34 (42)	B		
		【保護者】 わが子は、家庭できちんとした生活習慣が身に付いている	86% (86) 83% (86)					11 (23)
5	開かれられる学校づくり	① 積極的な情報発信と学校公開	【教職員】 各種便りや学校HP等で、学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えている	91% (93)	33 (50)	A	○ホームページをリニューアルし、内容の充実を図ることができた。 ◆保護者や地域の方々々が求めている情報をタイムリーに伝えていく必要がある。 ・ホームページ担当者をさらに配置し、円滑な更新に努める。  ◆対応の仕方については個人差が見られる。今後も保護者の気持ちに寄り添った対応に努めなければならない。	
			【保護者】 学校は、各種便りや学校HP等で、学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えている	95% (89)				25 (27)
			【保護者】 学校から出しているお知らせやたよりに目を通して	90% (94)	37 (40)	B		
			【保護者】 学校の電話や訪問等での対応は適切である	88% (95)				29 (30)
			92% (89)					
			85% (89)					
			83% (95)					
			86% (96)					

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( )：H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策	
5 開かれた信頼される学校づくり	② 学校評価の充実	【教職員】 保護者アンケートや学校関係者評価等を学校運営に役立てるように努力している	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	93% (91) 95% (83)	30 (33)	A	○各分掌における分析から対応策の検討までの一連の流れが定着している。 ◆全教職員の課題意識の持続が必要である。	
		【生徒】★全国質問紙(20) 今住んでいる地域の行事に参加している		58% (62) 52% (56)	19 (22)	D	◆町内各地域における中学生の関われる機会の掌握が十分ではない。	
	③ 保護者・地域との連携	【教職員】 メール・ネットに関する内中ルールを守るように指導した		84% (92) 93% (89)	37 (36)	A	◆生徒、保護者、教職員の意識に差が見られる。 ・生徒会が中心になり「(メディア等の利用に関する内中ルール)」の見直しと取組の充実を図っていく。また、スクールライフ等を通して啓発を行い、家庭や地域と連携した取組を推進する。	
		【生徒】 メール・ネットに関する内中ルールを守るように心がけている		83% (86) 78% (85)	36 (42)	B		
		【保護者】 わが子は、メール・ネットに関する内中ルールを守るように心がけている		71% (75) 72% (75)	22 (23)	C		
		【教職員】 テスト前にノーメディアデーを意識して、家庭学習に取り組むように指導した		91% (96) 97% (87)	41 (34)	A		
		【生徒】 テスト前のノーメディアデーを意識して、家庭学習に取り組んだ		72% (78) 67% (75)	25 (29)	C		
		【保護者】 わが子は、テスト前のノーメディアデーを意識して取り組んでいた		52% (53) 56% (54)	17 (17)	D		
		【保護者】 学校では、PTA活動が活発である		77% (87) 78% (92)	19 (18)	B		◆PTA各部会の取組内容を見直し、執行部を中心に主体的に活動していただけるよう働きかける必要がある。
		【保護者】 学校を信頼して、わが子を預けている		92% (94) 93% (95)	37 (39)	A		◆子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、全教職員が全ての教育活動に一丸となって取り組まねばならない。
	【教職員】 ペア、グループ活動の目的の明確化を意識している	93% (88) 83% (89)	38 (44)	B	◆何のためのペア・グループ学習なのか、教師がその意図を明確にしておく必要がある。			

重点項目	主要な具体的な取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	上段：前期 下段：後期 ( ):H29年度	回答 ①	評価	○成果 ◆課題 ・改善策	
6 そ の 他	① 校内研究の推進	【教職員】 「つなぐ・広げる・深める」教師の働きかけを意識している	A：①+②が90%以上 B：①+②が75%以上 C：①+②が60%以上 D：①+②が60%未満	84% (96)	31 (40)	A	○校内研究テーマを意識した授業実践が円滑に行われている。 ◆よりよい授業のあり方をめざした意識の継続が今後の課題である。	
		【教職員】 生徒の意欲を高める「課題」と「まとめ」の工夫を意識している		83% (88)				31 (23)
	② 基本的な指導姿勢 (重点事項)	【教職員】 「魅力のある学校づくり」を意識して、日々の教育活動に当たることができた		93% (87)	44 (45)	A	◆生徒・教師・保護者・地域それぞれにとっての「魅力」について再確認し、全職員の共通した認識のもと、教育活動を展開する必要がある。	
		【教職員】 共通理解・共通実践に努め、組織的な取組が進められるよう心がけている		97% (91)				
		【教職員】 各種の取組(実践)を評価・検証し、次に生かそうと指導改善に努めている		93% (97)				
		【教職員】 業務の効率化を意識して、日常の業務改善に取り組むことができた。		97% (98)				
	③ 働き方改革 (多忙化解消)	【教職員】 業務の効率化を意識して、日常の業務改善に取り組むことができた。		93% (98)	35 (32)	A	◆明らかとなった課題を全教職員で共有し、PDCAのサイクルに基づいた取組を今後も推進していかねばならない。	
		【教職員】 時間外勤務時間を縮減できた。		95% (96)				
				【教職員】 業務の効率化を意識して、日常の業務改善に取り組むことができた。	77% (-)	30 (25)	A	◆校内体制の整備や、職員間の適切な役割分担を検討していく必要がある。
				【教職員】 時間外勤務時間を縮減できた。	90% (-)			
			67% (-)	35 (16)	B	○退校時刻の目標値を定めることにより、意識の高まりは見られるようになった。 ◆教職員一人ひとりが意識を持ち、計画的・効率的に業務を行えるよう努めなければならない。		
			79% (-)					

 : 内灘町の共通評価項目